

## 情勢報告

## 穴内地区のナス農家が主体となって新技術勉強会を開催



試験結果を説明する普及指導員

8月6日に穴内地区ナス農家が主体となって新技術勉強会を穴内集出荷場で開催し、生産者25人が参加しました。

農業改良普及課からは27園芸年度に実施した除湿機を用いた病害対策試験の結果について情報提供をしました。また、高知工業高等専門学校からはファインバブルの特性について、資材メーカーからはファインバブル発生装置、環境測定機器及び除湿機について紹介がありました。生産者からは除湿機を利用したハウスで発生した病害の程度など多くの質問がありました。

農業改良普及課は、今後も現地検討会や勉強会での技術情報の提供等を通じて、生産者の活動を支援します。

## 中芸集出荷場園芸研究会が今作の反省会を開催

生育診断について生産者と意見交換する  
普及指導員（環境制御普及推進担当）

7月29日に中芸集出荷場園芸研究会が中芸集出荷場で反省会を開催し、生産者10人が参加しました。

J Aからは、平成27園芸年度の試験成績の発表と土づくりについて、資材メーカーからは肥料や農薬について紹介がありました。

農業改良普及課からはフザリウム立枯病対策や次年度の試験計画、生育診断技術と環境制御技術の情報提供をしました。平成27園芸年度に生育診断を実践した生産者からは、「管理に困ったときに指標となるすばらしいデータ」といった意見がありました。

農業改良普及課は、今後も現地検討会や勉強会での技術情報の提供等を通じて部会活動を支援します。

## 唐浜集出荷場研究会が反省検討会を開催



普及指導員の説明を熱心に聴く生産者

7月30日、唐浜集出荷場研究会が唐浜集出荷場で反省検討会を開催し、生産者11人が参加しました。

農業改良普及課はピーマンフザリウム立枯病や環境制御技術のH26年度の実証結果と今後の予定、チャノキイロアザミウマ対策についての情報提供を行いました。また、熱中症に注意するよう呼びかけました。J Aからは新規登録農薬の紹介がありました。生産者からはハウス内の湿度対策や新規天敵リモニカスカブリダニの価格等についての質問があり、次作の取組について意見交換が行われました。

農業改良普及課は今後もJ Aと連携し、現地検討会や勉強会等で情報提供を通じて部会活動を支援していきます。

## 情勢報告

## 今年もナスフザリウム立枯病防除対策実証ほ始動～第一弾：蒸し込み開始！



生産者と協力して蒸し込み用ポリマルチを設置する普及指導員

近年、管内の施設ナス栽培では新病害「ナスフザリウム立枯病」が問題となっており、農業改良普及課は本病害の防除技術の確立に取り組んでいます。今作では管内 3 カ所に防除対策実証ほを計画しており、第一弾として、安芸集出荷場管内のほ場で 8 月 1 日に太陽熱土壤消毒を開始しました。当日は早朝とはいえ猛暑の中、生産者、営農指導員、普及指導員 3 人が協力して蒸し込み用ポリマルチを設置しました。

今後は整枝・摘葉作業の改善、有効薬剤の予防散布、畦上マルチング等を併用し、病害の発生程度を観察しながら総合的防除対策を検証します。

ポンカンの一元出荷及び光センサー選果機導入に向けて  
～東洋柑橘部会が臨時総会で導入を決定～



臨時総会の様子

7 月 29 日に東洋柑橘部会の臨時総会が東洋町の河内集会所で開催され、生産者 16 人と関係者が出席しました。総会では室戸市と東洋町のポンカンの一元出荷及び光センサー選果機導入が賛成多数で承認されました。

農業改良普及課は、H26 年度からこれらの取組を普及計画に位置付けて導入効果を試算するなど、J A と連携して部会への説明や部会役員との検討を重ねてきました。当初は消極的であった生産者も、品質向上や出荷コストの削減につながる産地の将来を見据えた計画を理解し、最終的には賛成多数で計画が承認されました。

今後は、光センサー選果機の導入に向けて、引き続き関係機関との調整を行っていきます。

## 酒米の品質向上を目指して（安芸市東川地区酒米研究会 穂肥現地検討会の開催）



幼穂の大きさは・・・20mm ぐらいかな

7 月 28 日、東川地区酒米研究会の生産者 13 人が参加し、各ほ場の巡回を行いました。J A と農業改良普及課が事前に調査した葉色・生育調査の結果をもとに作成した穂肥施用案をもとに、幼穂の大きさを確認しながら、施用量やタイミングについて検討を行いました。

巡回後は、J A 東川事業所で農業改良普及課が各ほ場の講評を交えながら、今後の栽培管理の注意点や早期稲で多く発生しているカメムシ類防除の必要性について指導しました。

酒米研究会では酒造業者を交えた現地検討会を 9 月に計画しており、農業改良普及課は J A と連携を取りながら、酒米のさらなる栽培技術向上を目指します。

## 情勢報告

## 研修修了生に対する目標設定の面談



研修修了生に栽培管理について  
指導する普及指導員（左）

農業改良普及課では、研修を修了し就農 3 年目までの新規就農者に対し、J A とともに面談や巡回を行い、重点的に支援しています。

8 月 5 日は、田野町で 6 月末に研修を修了した新規就農者 3 人と面談し、今後 1 年間の目標設定を行いました。本人の考えを確認しながら、収量や所得の目標、簿記や作業日誌による記帳管理、課題になる栽培管理など、各自が目標を設定できました。また、栽培管理の研修も行い、質問に答えながら当面の作業について確認しました。

今後は、目標に向かって実践できているかを現地巡回や面談で定期的に確認し、目標達成に向けて指導助言していきます。

## 直販所「あきあいあい広場」先進事例研修



「鏡むらの店」での直販研修の様子

農業改良普及課は、8 月 6 日奈半利町直販所「あきあいあい広場」出荷者 13 人を対象に、商品性向上や直販所の運営、集客方法の習得を目的に高知市内の直販所 2 店舗で視察研修を行いました。「鏡むらの店」は、農産物の品揃えが良い直販所であり、荷姿や P O P 表示、レシピの提示等販売方法について研修を行い、「春の里」では、部会のあり方やクレーム対応の大切さ、栽培講習会やトレサビリティーの重要性等を研修しました。

参加者からは「商品づくりの参考になった。購買意欲のわく店だったので、是非参考にしたい」との意見が出されました。

今後、農業改良普及課では、秋まき野菜の栽培講習会や総菜づくり等売れるものづくりを目指して支援します。

## 室戸市吉良川町庄毛地区で集落営農組織設立



設立総会

7 月 27 日に吉良川町公民館で、農業改良普及課室戸支所が組織設立に向け支援してきた、庄毛集落営農組合の設立総会が開催されました。組合規約、要綱、ビジョン、役員、活動計画、予算書を決定し設立しました。組織のメンバーは 5 人と少数精鋭ですが、室戸市で最初の組織設立で、これからの活動が期待されます。

農業改良普及課は、市役所や関係機関と連携し、今後も集落営農組合の活動を支援し、協業品目の選定や栽培指導をしていきます。また、現在庄毛地区で話が進んでいるほ場整備が行われた後の営農の受け皿組織として、自主的な活動ができるよう指導助言していきます。

情勢報告

集落営農塾（組織化）の開催



集落営農塾（組織化）開催状況

8月3日、農業改良普及課は、安田町文化センターで集落営農の組織化を進めるため、集落営農塾（組織化）を開催しました。中山間地域等直接支払制度協定締結組織及び多面的機能支払交付金対象組織の代表者と関係機関併せて25人の出席がありました。

県地域農業推進課の専門技術員が、集落営農の必要性について説明し、また、農業改良普及課は集落営農の進め方や県外先進地の紹介を行いました。組織代表者からは、「農地は集落で守って行く必要があり、集落営農に関心がある」等の意見があり、有意義な意見交換ができました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携し、「集落で話を聞いてみたい」という意志がある地域で集落営農を推進していきます。